

---

# あの日の思い出

幸太郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あの日の思い出

### 【コード】

N0232C

### 【作者名】

幸太郎

### 【あらすじ】

昔の約束そしていきなりの告白主人公はいつたいどうなるのか

## 第1話 いきなりですか!!

「大きくなったらシンちゃん しょうね

「いいよ」

・・・

「新太郎起きろ先生来たぞ

・・・

「ああわかった」

俺はまだ完全に目が開いてない目を擦りながら窓の風景を見ながら夢に出てきた女の子の事を考えていたらいつの間にか休み時間に入っていた

「新太郎お前は夏休み暇かあ？」

といきなり友人の明が話し掛けて来た

「別に暇だけどなんでだ？」 「叔父さんの別荘に行くんだけどお前も行かないか？」

「男だけでいくのかよ」

「んなわけないだろちゃんと女も誘つといたよ」

「誰がいるんだよ!？」

「来てみればわかるさ」w

「暇だし面白そうだからいいよ^^」

話しをしていると休み時間終了のチャイムがなった俺は席に座って次の授業の準備をして先生を待っていると、一番前の席に座っていた身長が小さくて髪が背中ぐらいまでありクラスで人気のあると言われている吉本涼子が俺に話しかけてきた。

「辻君、合わせたい人がいるんだけど放課後空いてるかな？」

「別に空いてるけど」

「じゃあ学校終わったら駅前にある喫茶店yellow butter  
erflyに来てくれる？」

「ああいいよ」

そう言ったて涼子は自分の席に戻っていった。

そして放課後

言われた通りに駅の近くにある喫茶店yellow butter  
erflyについた、店のドアを開けると涼子を探しているとが窓側の席からこちらに向かって手を振っている、俺は涼子の座っている席に歩いて行くと隣の席に髪を後ろで縛っていて、小学生のように初々しい顔をした女性がいた、俺は彼女と、涼子の席まで行くと涼子が、

「私、この後、用があるから、もう行くね、」

「吉本、ちょっと待てよ、この子はいつたい・・・」

「この子は、私の二つ下の後輩の妹の高橋広子ちゃん、今、中学、  
2年生だよ^^」

「こんにちは、高橋広子です、先輩の事は先輩が中学の部活を

第1話 いきなりですか!! (後書き)

面白かったですか?? つまらなかつたらすみません  
最後まで読んでくれた人ありがとう次回作も期待してね^^焦

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0232c/>

---

あの日の思い出

2010年10月13日22時09分発行